Sub Title Inves Author 杉山, Publisher 慶應 Publication year 2019 Jtitle 学事 JaLC DOI Abstract 本研究 そした。 適なまました。 のののよう	語ピッチアクセントの音響的多次元性とその知覚における役割の解明 stigating the acoustic correlates of Japanese pitch accent and their relevance in perception 由希子(Sugiyama, Yukiko) 義塾大学 振興資金研究成果実績報告書 (2018.) 究の目的は、日本語の韻律特徴であるピッチアクセントがどのような音響特徴をもつのか、てそれが他言語の韻律特徴と同じように多次元的(冗長的)に実現されているのかどうかをすることであった。当初は聴取実験のみを行う予定であったが、共同研究者と議論を重ねた、より包括的で信頼度の高いデータを得るために、発話実験から行うことになった。それはともと聴取実験を行うのに使用する予定であった音声ファイルや単語リストよりも、より最ものがあると判断したからである。もとは、「橋」と「端」のような、尾高型と平板型のアクセントのみを、1種類のキャリアみで検証する予定であった。しかし2音節語は3つのアクセント型を取り得るので、「箸」うな頭高型の単語も含めることにした。そして、それらを音韻環境の異なる3種類のキャリに埋め込み、通常の発声とささやき声の2種類の発声法で東京方言話者に読んでもらうことた。ささやき声で録音をするのは、ささやき声は声帯の振動を伴わずに発声されるので、ピ
Author 杉山, Publisher 慶應 Publication year 2019 Jtitle 学事 JaLC DOI Abstract 本研 そし 検証 結果、、 適な もと 文の のよ ア文(にし ッチ	由希子(Sugiyama, Yukiko) 義塾大学 振興資金研究成果実績報告書 (2018.) 究の目的は、日本語の韻律特徴であるピッチアクセントがどのような音響特徴をもつのか、 てそれが他言語の韻律特徴と同じように多次元的(冗長的)に実現されているのかどうかを することであった。当初は聴取実験のみを行う予定であったが、共同研究者と議論を重ねた 、より包括的で信頼度の高いデータを得るために、発話実験から行うことになった。それは ともと聴取実験を行うのに使用する予定であった音声ファイルや単語リストよりも、より最 ものがあると判断したからである。 もとは、「橋」と「端」のような、尾高型と平板型のアクセントのみを、1種類のキャリア みで検証する予定であった。しかし2音節語は3つのアクセント型を取り得るので、「箸」 うな頭高型の単語も含めることにした。そして、それらを音韻環境の異なる3種類のキャリ に埋め込み、通常の発声とささやき声の2種類の発声法で東京方言話者に読んでもらうこと
Publisher 慶應 Publication year 2019 Jtitle 学事 JaLC DOI Abstract 本研究 そした 検証・ 結果、、適な・ もと、 文のより ア文し ッチ・	議塾大学 振興資金研究成果実績報告書 (2018.) 究の目的は、日本語の韻律特徴であるピッチアクセントがどのような音響特徴をもつのか、 てそれが他言語の韻律特徴と同じように多次元的(冗長的)に実現されているのかどうかを することであった。当初は聴取実験のみを行う予定であったが、共同研究者と議論を重ねた 、より包括的で信頼度の高いデータを得るために、発話実験から行うことになった。それは ともと聴取実験を行うのに使用する予定であった音声ファイルや単語リストよりも、より最 ものがあると判断したからである。 もとは、「橋」と「端」のような、尾高型と平板型のアクセントのみを、1種類のキャリア みで検証する予定であった。しかし2音節語は3つのアクセント型を取り得るので、「箸」 うな頭高型の単語も含めることにした。そして、それらを音韻環境の異なる3種類のキャリ に埋め込み、通常の発声とささやき声の2種類の発声法で東京方言話者に読んでもらうこと
Publication year 2019 Jtitle 学事! JaLC DOI Abstract 本研究 そした 検証・ 結果、 、適な・ もと。 文の のよう アンレー・ ッチュー・ アンレー・ アントー・ アンレー・ アントー・ アン	振興資金研究成果実績報告書 (2018.) 究の目的は、日本語の韻律特徴であるピッチアクセントがどのような音響特徴をもつのか、てそれが他言語の韻律特徴と同じように多次元的(冗長的)に実現されているのかどうかをすることであった。当初は聴取実験のみを行う予定であったが、共同研究者と議論を重ねた、より包括的で信頼度の高いデータを得るために、発話実験から行うことになった。それはともと聴取実験を行うのに使用する予定であった音声ファイルや単語リストよりも、より最ものがあると判断したからである。もとは、「橋」と「端」のような、尾高型と平板型のアクセントのみを、1種類のキャリアみで検証する予定であった。しかし2音節語は3つのアクセント型を取り得るので、「箸」うな頭高型の単語も含めることにした。そして、それらを音韻環境の異なる3種類のキャリに埋め込み、通常の発声とささやき声の2種類の発声法で東京方言話者に読んでもらうこと
Jtitle 学事 JaLC DOI Abstract 本研究 を記念 を記念 を記念 を記念 を記念 をなる ののより にリッチン	振興資金研究成果実績報告書 (2018.) 究の目的は、日本語の韻律特徴であるピッチアクセントがどのような音響特徴をもつのか、てそれが他言語の韻律特徴と同じように多次元的(冗長的)に実現されているのかどうかをすることであった。当初は聴取実験のみを行う予定であったが、共同研究者と議論を重ねた、より包括的で信頼度の高いデータを得るために、発話実験から行うことになった。それはともと聴取実験を行うのに使用する予定であった音声ファイルや単語リストよりも、より最ものがあると判断したからである。もとは、「橋」と「端」のような、尾高型と平板型のアクセントのみを、1種類のキャリアみで検証する予定であった。しかし2音節語は3つのアクセント型を取り得るので、「箸」うな頭高型の単語も含めることにした。そして、それらを音韻環境の異なる3種類のキャリに埋め込み、通常の発声とささやき声の2種類の発声法で東京方言話者に読んでもらうこと
JaLC DOI Abstract 本研えた。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 をいる。 をいる。 をいる。 をいる。 をいる。 をいる。 をいる。 をいる	究の目的は、日本語の韻律特徴であるピッチアクセントがどのような音響特徴をもつのか、てそれが他言語の韻律特徴と同じように多次元的(冗長的)に実現されているのかどうかをすることであった。当初は聴取実験のみを行う予定であったが、共同研究者と議論を重ねた、より包括的で信頼度の高いデータを得るために、発話実験から行うことになった。それはともと聴取実験を行うのに使用する予定であった音声ファイルや単語リストよりも、より最ものがあると判断したからである。もとは、「橋」と「端」のような、尾高型と平板型のアクセントのみを、1種類のキャリアみで検証する予定であった。しかし2音節語は3つのアクセント型を取り得るので、「箸」うな頭高型の単語も含めることにした。そして、それらを音韻環境の異なる3種類のキャリに埋め込み、通常の発声とささやき声の2種類の発声法で東京方言話者に読んでもらうこと
JaLC DOI Abstract 本研えた。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 を記した。 をいる。 をいる。 をいる。 をいる。 をいる。 をいる。 をいる。 をいる	究の目的は、日本語の韻律特徴であるピッチアクセントがどのような音響特徴をもつのか、てそれが他言語の韻律特徴と同じように多次元的(冗長的)に実現されているのかどうかをすることであった。当初は聴取実験のみを行う予定であったが、共同研究者と議論を重ねた、より包括的で信頼度の高いデータを得るために、発話実験から行うことになった。それはともと聴取実験を行うのに使用する予定であった音声ファイルや単語リストよりも、より最ものがあると判断したからである。もとは、「橋」と「端」のような、尾高型と平板型のアクセントのみを、1種類のキャリアみで検証する予定であった。しかし2音節語は3つのアクセント型を取り得るので、「箸」うな頭高型の単語も含めることにした。そして、それらを音韻環境の異なる3種類のキャリに埋め込み、通常の発声とささやき声の2種類の発声法で東京方言話者に読んでもらうこと
Abstract 本研究 そを証 結果、 適を うのよう のアに ッチ	てそれが他言語の韻律特徴と同じように多次元的(冗長的)に実現されているのかどうかをすることであった。当初は聴取実験のみを行う予定であったが、共同研究者と議論を重ねた、より包括的で信頼度の高いデータを得るために、発話実験から行うことになった。それはともと聴取実験を行うのに使用する予定であった音声ファイルや単語リストよりも、より最ものがあると判断したからである。もとは、「橋」と「端」のような、尾高型と平板型のアクセントのみを、1種類のキャリアみで検証する予定であった。しかし2音節語は3つのアクセント型を取り得るので、「箸」うな頭高型の単語も含めることにした。そして、それらを音韻環境の異なる3種類のキャリに埋め込み、通常の発声とささやき声の2種類の発声法で東京方言話者に読んでもらうこと
検証できる。音響をしている。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	ドクセントの主な音響特徴と言われる基本周波数(f0)が含まれず、f0以外の音響特徴を検証格好の素材となるからである。 する単語や単語を埋め込んで読むキャリア文を検討するのに、かなりの時間がかかってしま。また、実際に録音を始めると、ささやき声で発話してもらうと振幅がかなり小さくなり、分析ができないものも見つかったため、録音方法も再検討する必要があった。さらに、録音イズが混入することがあり、ノイズ源を見つけるのにも時間を要した。現在は、録音に使用いるパソコンがノイズ源である可能性が高いと分かった。試行錯誤の1年であったが、研究内ついていま一度じっくりと吟味することができ、2019年度は科研費を獲得することができたわから5年かけて、発話実験と聴取実験を行う予定である。 goals of the study were to identify acoustic propertie(s) involved in realizing prosodic acteristics in Japanese called pitch accent and to examine if Japanese pitch accent is actually ted through multiple acoustic dimensions like prosodic characteristics in other languages. Bugh the original plan was to conduct only perception experiments, after extensive discussions my collaborator, we decided to conduct production experiments first to obtain more prehensive and reliable data in perception experiments that follow. Original plan was to examine only minimal pairs between final-accented words (e.g. /hasi/pe'; a caret indicates the preceding syllable is accented) and unaccented words (e.g. /hasi/pe' a caret indicates the preceding syllable is accented) and unaccented words (e.g. /hasi/policate the phonological effect of words that follow the test words on the realization of pitch nt. Furthermore, we decided to include a third accent pattern which has accent on the initial pole such as /ha^si/meaning chopsticks. We also added two more types of carrier sentences to stigate the phonological effect of words that follow the test words on the realization of pitch nt. Furthermore, we decided to record sentences in whisper as well as in normal phonation. The production is typically produced without vocal fold vibrations, which are thought to be the ary cue to pitch accent, whispered speech can serve as an optimal material to investigate andary cues in Japanese pitch accent, if any. The production of time to select words to test and carrier sentences to embed the test in Second, once the production experiment started, it turned out that some utterances uced in whisper were too low in inten
Notes	
Genre Rese	earch Paper
URL https:	://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180171

保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2018 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	理工学部	職名	准教授		300	(A)	千円
	氏名	杉山 由希子	氏名 (英語)	Yukiko Sugiyama	補助額		(A)	

研究課題 (日本語)

日本語ピッチアクセントの音響的多次元性とその知覚における役割の解明

研究課題 (英訳)

Investigating the acoustic correlates of Japanese pitch accent and their relevance in perception

1. 研究成果実績の概要

本研究の目的は、日本語の韻律特徴であるピッチアクセントがどのような音響特徴をもつのか、そしてそれが他言語の韻律特徴と同じように多次元的(冗長的)に実現されているのかどうかを検証することであった。当初は聴取実験のみを行う予定であったが、共同研究者と議論を重ねた結果、より包括的で信頼度の高いデータを得るために、発話実験から行うことになった。それは、もともと聴取実験を行うのに使用する予定であった音声ファイルや単語リストよりも、より最適なものがあると判断したからである。

もともとは、「橋」と「端」のような、尾高型と平板型のアクセントのみを、1種類のキャリア文のみで検証する予定であった。しかし2音節語は3つのアクセント型を取り得るので、「箸」のような頭高型の単語も含めることにした。そして、それらを音韻環境の異なる3種類のキャリア文に埋め込み、通常の発声とささやき声の2種類の発声法で東京方言話者に読んでもらうことにした。ささやき声で録音をするのは、ささやき声は声帯の振動を伴わずに発声されるので、ピッチアクセントの主な音響特徴と言われる基本周波数(f0)が含まれず、f0 以外の音響特徴を検証する格好の素材となるからである。

検証する単語や単語を埋め込んで読むキャリア文を検討するのに、かなりの時間がかかってしまった。また、実際に録音を始めると、ささやき声で発話してもらうと振幅がかなり小さくなり、音響分析ができないものも見つかったため、録音方法も再検討する必要があった。さらに、録音にノイズが混入することがあり、ノイズ源を見つけるのにも時間を要した。現在は、録音に使用しているパソコンがノイズ源である可能性が高いと分かった。試行錯誤の 1 年であったが、研究内容についていま一度じっくりと吟味することができ、2019 年度は科研費を獲得することができた。これから 5 年かけて、発話実験と聴取実験を行う予定である。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

The goals of the study were to identify acoustic propertie(s) involved in realizing prosodic characteristics in Japanese called pitch accent and to examine if Japanese pitch accent is actually realized through multiple acoustic dimensions like prosodic characteristics in other languages. Although the original plan was to conduct only perception experiments, after extensive discussions with my collaborator, we decided to conduct production experiments first to obtain more comprehensive and reliable data in perception experiments that follow.

The original plan was to examine only minimal pairs between final-accented words (e.g. /hasi^ 'bridge'; a caret indicates the preceding syllable is accented) and unaccented words (e.g. /hasi/ 'edge') produced in one type of carrier sentence. However, since disyllabic words can have three accent patterns, we decided to include a third accent pattern which has accent on the initial syllable such as /haˆsi/ meaning chopsticks. We also added two more types of carrier sentences to investigate the phonological effect of words that follow the test words on the realization of pitch accent. Furthermore, we decided to record sentences in whisper as well as in normal phonation. Because whisper is typically produced without vocal fold vibrations, which are thought to be the primary cue to pitch accent, whispered speech can serve as an optimal material to investigate secondary cues in Japanese pitch accent, if any.

We came across several unexpected obstacles on the way, causing delay in the timeline. First, it took a substantial amount of time to select words to test and carrier sentences to embed the test words in. Second, once the production experiment started, it turned out that some utterances produced in whisper were too low in intensity to make acoustic analyses. In addition, some recordings contained relatively loud noise and it took some time identify its source. We now suspect that the computer used for recording was producing the noise. Although we were not able to carry out the study as planned, this past year gave us the opportunity to once again scrutinize the test words and carrier sentences to use in the experiments. With the JSPS grant we will be receiving for the next five years, we plan to continue our study.

3. 本研究課題に関する発表									
発表者氏名 (著者・講演者)			学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)						
Yukiko Sugiyama	Word identification in the absence	International Symposium on	2018年10月23日						
	of the primary cue in Japanese	Universal Acoustical							
	pitch accent	Communication 2018							